

# 農業技術 プリズム

水稻の幼穂形成期の穂肥は、もみ数の確保や粒の肥大に効果があります。しかし、生育状況に応じて量を調整しなければ、もみ数が過剰となり、品質が低下してしまいます。そこで、2018年から県内で本格生産が始まった水稻早生品種「なつほのか」について、安定多収かつ良質米生産のための生育診断指標を明らかにしました。

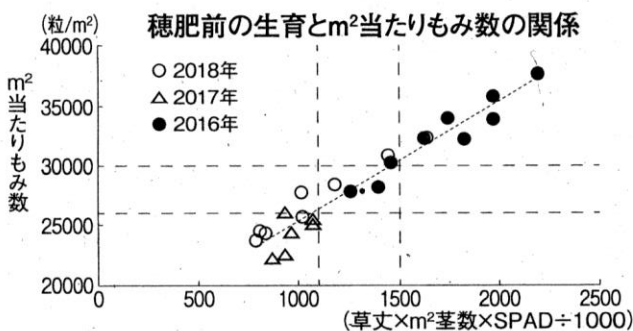
「なつほのか」の10㎡当たり収量を6000キ以上確保するためには、1平方メートル当りのもみ数を2万6500粒以上、確保する必要があります。また、1等米を生産するためには3万粒以下に制限する必要があります。

よって「なつほのか」の適正もみ数は、1平方メートルあたり2万6500〜3万粒となります。

## 水稻「なつほのか」の生育診断

### 収量・品質アップへ穂肥前の指標定める

また、穂肥前（出穂20〜25日前ごろ）の草丈×1平方メートル当り基数×SPAD（葉緑素計値）÷1000の値が、1100〜15000の範囲であれば、



適正もみ数となります。生育過剰になると食味も低下する傾向がありますので、多肥栽培にならないように注意し、高品質で良食味な「なつほのか」の安定生産に取り組みましょう。

（県農林技術開発センター 農産園芸研究部門作物研究室 主任 古賀潤弥）